

クリークオーディオ

## Voyage i20 インテグレイテッドアンプレビュー

2020年7月25日に投稿\_stereonet.uk



このスイッチュ、新しいハイエンドのインテグレイテッドは、時代の変化の兆候です、とデビッド・プライスは言います。

Creek Audio

## Voyage i20 Integrated Amplifier

予価¥640,000 £4,500 MSRP



クリークの1980年代の「スーパーインテグレート」コンセプトの21世紀の再考を満たしてください。40年近く前に「手頃な価格のオーディオファン」アンプを開拓したブランドから、多くの読者は古いCAS4040を知り、愛するでしょう - このコンパクトで魅力的で強力なワンボックスデザインが登場します。新しいクリークオーディオ Voyage i20 は£4,500 の費用がかかり、今日の市場の上層部に置き、多くの点で興味深いです。

創業者のマイク・クリーク氏は、これは彼の会社史上最も高価なアンプだと言います。その理由の1つは、彼が製造業を中国からヨーロッパに移したことです。「私たちのビジネスモデルは変わりました」と彼は説明します。「私たちは、何千もの製品を事前に製造し、在庫から販売するという長期的な取り決めを終了しました。これにより、保管コストを節約し、代わりにより小さなバッチサイズで注文生産に集中することができました。今や巨大な工場で中国が所有し、大量に生産している英国ブランドの企業との競争に対抗しようとするのは、もはや私にとって望ましくない。代わりに、このような先進的な製品を英国で開発し、ヨーロッパの専門工場を組み立てることに決めました。

しかし、Voyage i20 は技術力とエンジニアリングの深さの点でブランドにとってステップチェンジであるため、生産物流は高級化に部分的にしか関与していません。これから見るように、これまでのクリーク製品にはない運用上の洗練さを誇っています。それでもなお、その「ピューリタン」クリークオーディオの精神のヒントがあります - それは爽やかにまばらで、その基本的なデザインにおいて控えめです。「私がハイファイジュエリーと呼んでいるものではなく、無意味な輝きを放ちます」とマイクは言います。「その代わりに、そのお金は最先端の回路と一流の材料に費やされています。オーディオエンジニアリングに妥協はありませんでした。

したがって、新しい Voyage i20 は、アップグレードを希望する既存の顧客だけでなく、新しいハイエンド市場を目指しています。それは、控えめでエレガントなパッケージで操作の洗練さと音のパフォーマンスを提供することです。マイクは、「そして、ブランド名の背後にいる人(または家族)によってまだ管理され運営されている英国の会社から積極的に購入しようとしています」と付け加えます。今日の多国籍企業の世界では、それは何かを表しています。



stereonet

## UP CLOSE

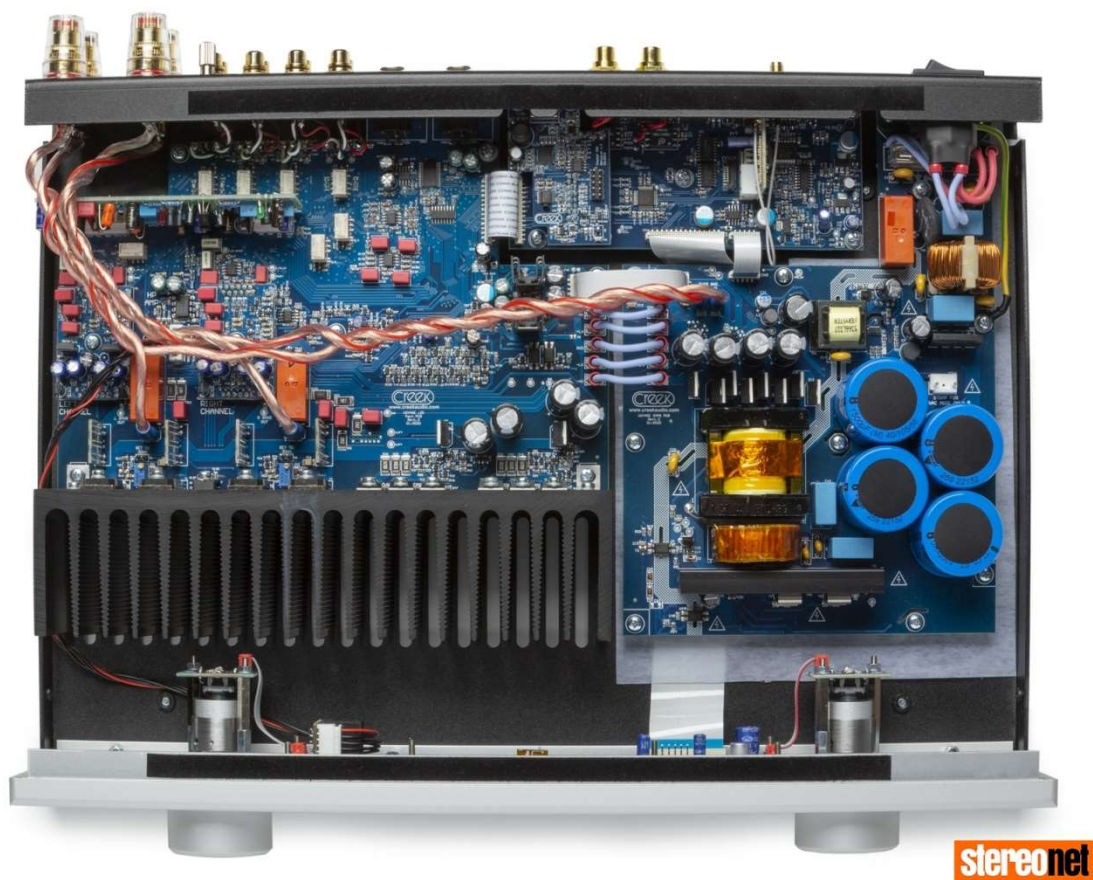
マイクの息子ルークによって巧みに設計されたi20の顔は、わずか2つのロータリーコントロールと、中央に取り付けられた、大きな黒のファインピッチOLEDディスプレイ上の、紙色の白色文字が、アンプのすべての機能を完全に制御します。それは本当に楽しいユーザーインターフェイスです、賞賛で息をのむようなHi-Fiハックを持つような種類は、スカンジナビアからのこれでした。アルミニウムのフロントパネルは繊細に表面処理化されており、コントロールは絹のような、しかしポジティブなアクションを持っています。背後のブラックメタルのケースワークは、派手な日本のブランドとは対照的に、ヘーゲルに期待される実用的な品質で、高い水準で行われています。Voyage i20は430x80x350mmで驚くほどコンパクトで、9kgでは重すぎず、リスニングルームにも優しいです。

強力なアンプは、多くのヒートシンクを必要とするため、大きなケースを必要とするか、D級の道を進む必要があります。マイク氏によると、クリークは過去にZetex/CSR DDFAタイプのデジタルフィードバック回路を含むクラスDプロトタイプを開発したという。「しかし、1つの例外を除いて、D級アンプは、出力に大容量の直列誘導フィルタを必要とすることによる悪影響に悩まされており、それが潜在的な音質を支配しています」と彼は私に言います。「リニアアンプの設計作業を放棄し、市販のモジュールをどれだけ優

れているかにかかわらず、単にプラグアンドプレイする準備ができていないと感じています。

クリークのファンもそうする準備ができていないかどうかはわからないので、彼はクラス AB の大部分で動作するクラス G デザインを選択しました。主な違いは、Voyage は 6 つの大電流 MOSFET を使用して電源レールを持ち上げるのに対し、代わりに 4 つのバイポーラトランジスタを使用した Evolution 100A と比較することです。これにより、熱効率が向上します。Voyage が純粋なクラス AB であり、同じパワーを開発できるようにするには、スタンディングバイアス電流によって発生する熱を放散するために、かなりの数の重量を量る必要があります。

マイクは、クリークが使用している形態のクラス G には 2 つの電源レールがあると説明しています。「フル電圧レール(上段)と半電圧レールがあるとしましょう。信号がより高い電力レベルで信号を追跡するためにより高い電圧レールを必要とする場合、クラス G 出力回路のパワー MOSFET はハーフレール電圧からフルレール電圧に切り替わります。そのピークが通過した直後に、バイアス電流を供給する電圧も低下します。電源電圧の半分は電力の 4 分の 1 を可能にするので、実際には、ピーク信号がそれを要求するときに 120W から 8 オームのアンプ、またはピークを生成しないときに 30W のアンプを持つようなものです。したがって、ヒートシンクのサイズを大幅に縮小できます。クラス G 回路は、音楽のダイナミックな性質を利用して、無駄な熱を減らします。



比較的コンパクトなスペースで、より少ないヒートシンクで多くの電力を開発できるため、ケースワークやヒートシンクの面では安価に製造できますが、より高価な半導体が必要です。では、なぜすべてのアンプがG級ではないのでしょうか？ マイク氏によると、このシステムは60年代から存在していたが、技術的な限界のために最近まで実装が難しかったという。「クラスGの『リフティング』ダイオードが動作する速度は、最初に開発された60年代には克服できなかった悪影響のほとんどを克服します。今日の半導体は、60年前の半導体よりもはるかに進歩しています。そのスキルを習得したら、それを活用することは完全に理にかなっています。

あなたがもちろん何をしているのかを知っている場合にのみ。「それを正しく行うには特別なスキルが必要です」とマイクは付け加えます。しかし、私たちはそのようなデザインをますます見ており、物事は急速に進んでいます。彼の実装を際立たせているのは、その特別な高周波電源です。「i20は、この先進技術を使用した最初のCreekアンプです。従来の設計と比較して電源のサイズを大幅に縮小するだけでなく、電圧を安定させます。つまり、引用された電力出力を開発するために必要な電圧は、負荷のオンまたはオフのいずれも変化しないため、より低いレベルで固定できます。したがって、同様の電力出力を生成する従来のアンプと比較して、無駄な熱が少なくなります。

120Wの定格出力を8オームにするために、電源は最大1,500Wに制限されていますが、マイクは必要に応じてかなり多くのジュースを簡単に生産できると言います。興味深いことに、負荷の半分に請求された出力電力は240Wに倍増し、再び2オームに倍増します。「この電源の安定性は、主電源の超低インピーダンスと同等であり、負荷に関係なく堅実です。これだけでも、あらゆるタイプのスピーカーを駆動する際のアンプのダイナミックなパワー供給に責任があると信じています。

Voyage i20 は、複数の MOSFET によって増強された強力な Sanken STD03 バイポーラトランジスタを使用して、必要に応じて驚異的な電力出力を提供します。サーマルトラッキングは、アイドル電流を補正し、クロスオーバー歪みを最小限に抑えるために使用されます。DC 結合されているため、デカップリングコンデンサは排除され、サウンドを最適化します。電子サーボ回路は、小さな DC オフセットを補償し、アンプの出力をゼロボルト DC に維持します。過電流、DC オフセット、温度の 3 つの形態のフォルト保護が含まれています。出力は、ラウドスピーカーを保存するために、障害がなくなるまでミュートされます。



## IN USE

2つのロータリーコントロールしか持っていないにもかかわらず、i20は非常に汎用性があります。プリアンプセクションには、3組のRCAフォノと1組のバランスの取れたXLRを備えた10個のアナログおよびデジタル入力があります。これらはすべてリリーススイッチされ、左のロータリーコントロールノブによっ



て選択され、特定の方法で押し込んでアンプのさまざまなメニュー設定を取得することもできます。たとえば、入力のゲインを 3dB ステップで変更したり、ダイレクトモードでプリアンプとボリュームコントロールをバイパスするようにアンプを設定することができます。右側のボリュームノブは、ミュートボタンとバランスコントロールとしても、いつものように押し込まれたかに応じて倍増します。\$129 プラグイン Sequel mk4 フォノステージのオプションもあり、40 または 50dB のゲイン、100pF または 200pF の容量、および RIAA フィルタリングを備えた MM または MC 接続を提供します。この印象的なサウンドのデバイスの以前の経験は、それが持っている価値のあるエキストラであることを私に教えてくれます。

パネルには、専用のヘッドフォンアンプステージによって駆動されるフルサイズのヘッドフォンソケットを備えています。また、このアンプには DAC が内蔵されており、同軸デジタル入力と光デジタル入力の 2 ペアに加えて、USB および aptX HD Bluetooth を提供します。マイクは、最大 32 ビット、768kHz、および 22.4MHz の DSD の PCM を処理できる AK4493EQ DAC チップを選択しました。USB の回路は DAC からガルバニック絶縁されており、グラウンドループや RF ノイズを除去します。USB 入力のもう 1 つの用途はソフトウェアアップデート用で、クリークは後で新しい機能を得ることができます。S / PDIF インを介して、DAC は 24/192 まで再生されます

メニューにはあらゆる種類の選択肢があります - たとえば、あらかじめ設定された時間後にアンプをスタンバイに切り替えるかどうか、ディスプレイの明るさを変えたり、ファームウェアの更新を行ったりすることができます。ディスプレイには、選択したソースレベルとボリュームレベル、および入力信号のデジタル解像度に関する包括的な情報が含まれています。ヒートシンクの動作温度を確認することもできます。また、アンプがチャンネルあたり約 50W RMS 以上を供給しているときに点滅する小さな「G」の凡例もあります。わずかにピクシレートされたディスプレイフロントだけが、私の目には側面を下ろしました。



## SOUND QUALITY

私は長年にわたってほとんどをレビューしてきましたが、2つの Creek インテグレイテッドアンプは私にとって象徴的なものとして際立っています。1つ目はオリジナルの CAS4040 自体、2つ目は 10 年ほど前の Destiny です。前者はクリーク・サウンドのテンプレートを敷き詰め、滑らかで、平坦で、オープンで、音楽的な性質を持ち、正直に言うと、少し「柔らかく跳ね上がった」。それは確かに当時のいくつかのライバルほど噛み付いていませんでした。Destiny はステロイドのようなものでした。大きくて豊かで豪華なサウンドで、素敵な音楽的な軽快さに加えて、さらに多くのパワーがあります。この新しい Voyage i20 は、解像度とディテールが劇的に向上した、これら両方よりもはるかにモダンに聞こえますが、それでもすべての入力にわたってブランドの楽しい音楽性を保持しています。

例えば、私のサイラス CD Xt Signature トランスポートとコード・ヒューゴ TT DAC がライン入力を介して供給されたとき、ボックストップスの The Letter の古典的な 60 年代のポップは、それらのオープニング リムショットのスピードと即時性が示すように、リズムとドライブの超鋭い感覚でやって来ました。シンバル作品に見事にシンクペーションされたリズムギターのパートが強調された、進行には大きな過渡的なスピードがありました。ベースギターはタイトで張り詰めていて、本当に推進力のある方法で曲を押し進



めていました。真鍮の刺し傷がビートに強烈なインパクトを与え、全体的な雰囲気は活気に満ちたライブパフォーマンスへの開かれた窓のようでした。

Destiny がこのトラックにパノラマ的だがややかすんだサウンドマントを与えたであろうところで、Voyage i20 は宇宙の取り扱いにおいてより正確であることが証明された。それはまだ左から右に広いサウンドステージを提供しましたが、画像の位置は「の一般的な方向」ではなくレーザー焦点でした。これは、ハービー・ハンコックの軽快な「I Have a Dream」のアコースティック・ジャズでさらに明らかになった。録音されたアコースティックは美しく広々としており、アンプはドラムキット、コントラバス、トロンボーン、フリューゲルホルン、ピアノのそれぞれの位置の超シャープな演奏を提供しました。



トラックはまた、この新しいクリークの最上級の詳細解決能力を強調しました。物事は非常に大気で、ミッドバンドにはほとんど「クリアガラス」な品質を持っていました。目立つ明快さは、本当に伝統的なクリークのものではありません。歴史的に、そのアンプは常に音に暖かい着色を貸し、少し不透明で夢のような響きでした。もちろん、それには何も問題はありません。多くの方は、いくつかのライバルのざらざらしたフォワードミッドバンドよりもそれを好む。しかし、Voyage i20 はブランドの伝統的なサウンドをある程度残し、ハードや「メタルメッキ」には決して見えません。例えば、シュガーズ・チェンジズの90年代のグランジ・ロックを食べさせれば、ソファの後ろに隠れる必要はありません。ポップ・モールドのエ

フェクトペダルを履いたエレキギターの複数のレイヤーのクランクアップリフは、その後を追うように私を席卷するブレスパフォーマンスを提供しました - たくさんのクラッシュハイハットとライドシンバルによって助けられ、扇動されました。しかし、私は音楽に怯えるのではなく、音楽に心を動かされていることに気がきました。そのクレイジーで鳴り響くギターの音色を戯画化する代わりに、このアンプはそれを正確に伝えました。

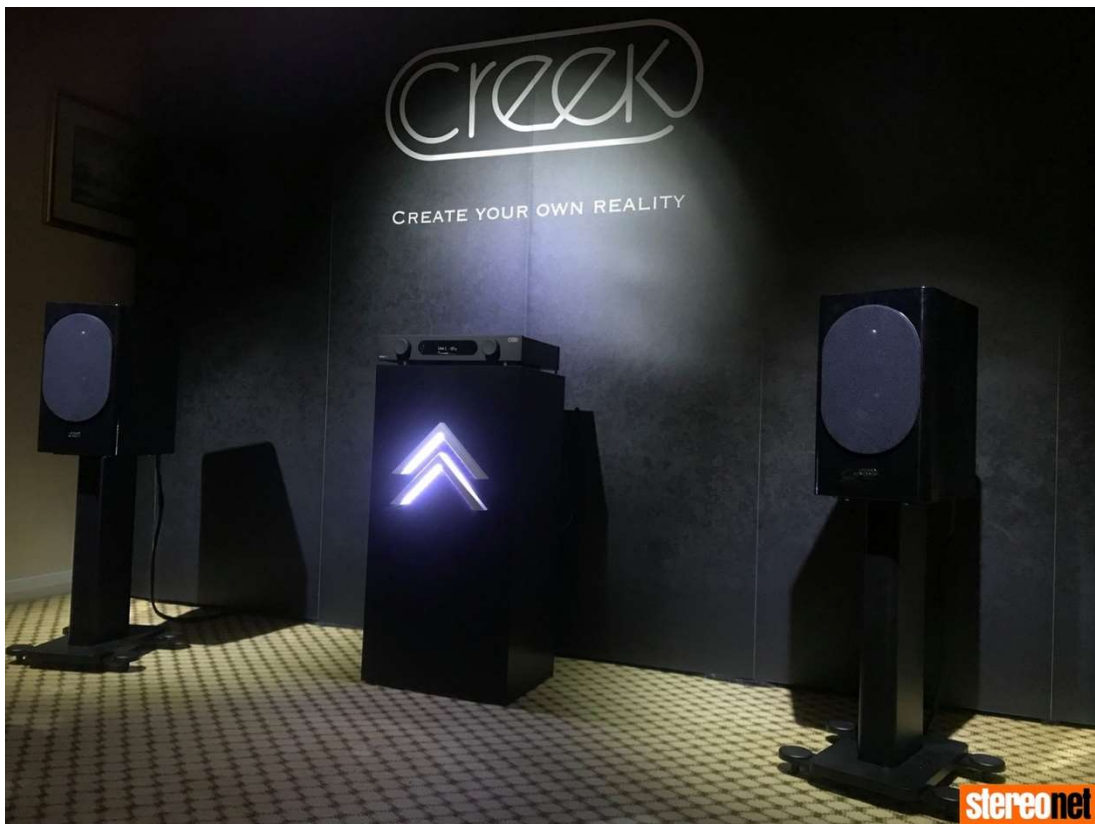
しかし、私は音楽に怯えるのではなく、音楽に心を動かされていることに気がきました。そのクレイジーで鳴り響くギターの音色を戯画化する代わりに、このアンプはそれを正確に伝えました。

これは魅力的なポイントを証明しました。昔の古典的なクリークのような「素敵なトーン」を持つ代わりに、Voyage i20 は細かく解決された正確なものを持っています。それは丸薬を砂糖にしているわけではありませんが、それは決してそれを酸っぱくしません - あなたはただことわざの皿の上にそれを渡されます。この固有の透明性により、レコーディングを覗き込んで、劇的に異なるスタジオの状態を発見できます。例えば、アイザック・ヘイズのオリジナル・サウンドトラック・アルバムのようなスタックスの録音を、レッド・ツェッペリンの『聖なる家』のドライなイギリスのスタジオ・サウンドから、アイザック・ヘイズのシャフトに簡単に伝えることができました。前者はとても甘かったので、マシュマロで作ったかもしれません。カフェ・レギオスでは、その低音は厚くてフルサムで、美味しくてクリーミーなミッドバンドがありました。しかし、後者の「雨の歌」は大きくてクラッシュするドラムがすべてであり、スチール弦のアコースティックギターのアルペジオは、私の首の後ろの毛を立たせる鮮明さとエッジでレンダリングされていました。



Chord DACに匹敵するものではありませんでしたが、Voyage i20の内部デジタル-アナログコンバータは依然として印象的でした。 ラッシュの『Subdivisions』は80年代初頭にデジタルで録音され、テイク・ア・フレンドのようなバンドの温かみのあるアナログ初期の作品からは程遠い。複雑で多層的なプロダクションで、加工されたギター、シンセサイザーのバックিং、緊張感のあるタイトなベースギターワーク、そしてもちろんバンドのトレードマークである巨匠ロックドラミングが主流です。当時の録音技術と制作のために、それは実際には初期のラッシュよりもかなり小さくて密集していて、楽しむのが難しいように聞こえます。しかし、このアンプは録音をそれ自体から引き出し、楽器編成の層を解きほぐして音楽の中心に届けることができました。過去20年間、私のお気に入りのソリッドステートアンプの1つであるDestinyは、常にこのトラックのサウンドを平坦にしようとしませんが、Voyage i20はそれを正確に伝えることに真剣に取り組んでいました。確かに、それはサッカリンの音が少し少なかったとしても、それでももっと楽しくなりました。

これは、音量を上げたときにさらに明らかになりました。私は一戸建ての家に住み、時折爆発を楽しむのに十分幸運です。新しいクリークは自宅で高いレベルで働いていましたが、私はディスプレイにその「G」の伝説がおそらく私がすべきよりも頻繁に点滅していることに気付きました。特に楽しかったのはエレクトロニック・ミュージックで、Voyage i20のキャラクターは完璧にフィットしています。ゴールドのタイムレス(90年代のドラム・アンド・ベースのヴィンテージ・スライスで、猛烈なトランジェントと広大な低音の帯)の真夜中のプラストは、非常に特別でした。私は、クリークが私のヤマハ NS-1000M スピーカーの 12 インチベースドライバーを首の首筋(またはボイスコイルであるべきですか?)でつかみ、ぼろぼろの人形で遊んでいる犬のようにそれらを投げ回す方法に感銘を受けました。このアンプは深刻なスピーカ一駆動能力を持っており、このような拷問トラックで最も明白です。



### *Creek Voyage i20 Preview (2019 Bristol Hi-Fi Show)*

パワーを豊富に持つことの大きな利点の1つは、小さくて駆動が難しいスタンドマウントを不処罰で使用できることです。私は無限のバッフル ATC SCM19 のペアを手を持っていました、そして、これらは朝食のために小さな内蔵アンプを食べます - しかし、クリークはランチメニューにありませんでした。LFOの低周波振動を演奏すると、彼らは愚かな音量に押し上げられました - 音楽に設定された 20Hz のテストトーンであることからそれほど遠くない 90 年代のテクノトラック。また、トラック中のダイナミクスの変化を正確に示すこともでき、音楽のアクセントを非常に忠実に追跡しながら、混乱することはありませんでした。興味深いことに、それが大きくなるにつれて、それは聞こえるほど厳しくはなりません。私はいつもその良いマナーに感銘を受けました。これは、クリークが驚くほど聞き取りやすくした Bluetooth のような最適ではない情報源にも当てはまりました。

欠点は？音の用語では、このクリークは「キャラクターアンプ」と呼ばれるものではありません。それは簡単に認識でき、即座にそして哀れに要約される劇的なペルソナを持っていません。この価格で、そして実際にハイエンドのインテグレートアンプ市場では、多くの人々がハーレーダビッドソンのオートバイと同等の Hi-Fi を望んでいます。Voyage i20 は単にこれではなく、代わりに自己顕示的で、すべての入力に

わたって先入観がありません。あなたがアンプではなく音楽を聴きたいのなら - 思考を減ぼす - これはあなたのためかもしれません。

## THE VERDICT

スティックを上げて生産を自宅に近づけ、多くの新技術を導入した新しいインテグレイテッドアンプを発売する大きな動きです。だからマイク・クリークは明らかに、最近、彼の愛するクラシック・ミニ・クーパーといじくり回す時間があまりなかった。しかし、Voyage i20 は純粋な成功です - それは昔の彼の製品よりもはるかに汎用性があり、使用するのが素敵で、本当にその部分を鳴らします。この新しいインテグレイテッドアンプにはプレミアムな値札があるかもしれませんが、一流の製品であり、そのようなことのために市場にいるなら、不可欠なオーディションです。

For more information, visit [Creek Audio](#).

## Gallery









## DAVID PRICE

デビッドは 1993 年にハイファイワールドの執筆を開始し、10 年近く雑誌を編集しました。その後、ハイファイチョイスの編集者に就任し、Stereo NET の編集長になるまでフリーランスとハイファイニュースを続けました。

